

# そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 6

2018年9月14日(金)発行

9月の聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙12-15)

## 闇の中の光



学校法人聖公会北海道学園

理事長 植松 誠

今回の地震のような想定外の災害が起こるたびに、どうしてこんなことが起こるのか、穏やかに生きている人たちがどうして理不尽に命を絶たれるのか・・・と、やりきれない思いになります。親を思う気持ち、子を思う気持ち、それらが分かるだけに、愛する家族を亡くした方々の、言葉にはならない絶望のような心の闇が私たちにも迫ってきます。

そのように気持ちがふさいでいる中、ちょっとしたことがほんの少しの光を届けてくれます。信号機がついていない道路で、運転者はお互いにゆすりあい、歩行者を優先し、待ってくれる人には礼を表し、いつもよりゆったりと流れる時間に合わせて運転をします。普段あまり行き来のない人たちから安否を問う便りや電話が届きます。畑の野菜を届けて下さる方、忘れられて賞味期限の切れていた食品をおいしく食べられたこと、停電や断水が解消して久しぶりに暖かいシャワーを浴びたときの気持ち良さ・・・。一つひとつの小さなことがいつもとは違う、ささやかでも温かい喜びをもたらしてくれるのです。こんなに単純な、でもこんなに大事なことを、すっかり忘れていた・・・。そういう思いに至ります。

被災者の方たちが、まわりから差し伸べられる手に「ありがたい・・・」と笑顔で話しておられる映像は、私たちに勇気を与え、人は信じるに足るものという思いを強くしてくれます。破壊されたところに、足りないところに、痛むところに、どん底に、「愛」というものはやはりきれいごとではなく、何よりも私たちの命を支えていることを感じます。

## 今回の地震に寄せて

園長 菊地 和子

私は30年近く、あちこちの小さな町で働いてきました。小さな町では交通事故などいっぺんに2人亡くなることもあるだけでも、人々がすごく悲しんで町中が暗く沈んだようになってしまうのです。それが今回のようにたくさんの人が地震で命を奪われてしまう・・・。どんなに町の人たちが嘆き悲しんでいるかと思うと、本当に胸が痛みます。

岩見沢では幸い被害が少なく、子どもたちもみんな無事でした。夜中に園に駆けつけてくれた先生たちや、一斉メールに答えて送迎や預かり保育のお休みに協力して下さった皆さんのおかげで、混乱なく過ごすことができました。緊急職員会議では余震に備え、先生方全員で確認・改善を行いました。まだ余震があります。皆さん、気を付けて過ごしましょう。

## お父さん・お母さんのパワーいっぱい！！

聖十字幼稚園はいつもいつもお父さんお母さんのパワーで守られています。8月25日(土)に行われたフェスティバルでも、お父さんお母さんのパワー炸裂！！楽しいコーナーを運営して下さったバザー委員会の皆さん、暑くて狭い図書室に集まって、工夫いっぱいのおもちゃや素敵な作品を作ってく下さった手作りサークルの皆さん、手作り焼き鳥・牛串が絶品だったおやじの会の皆さん、サークル以外でも出店して下さった皆さん、雨でも楽しいフェスティバルにして下さり、本当にありがとうございました。

そのほかの委員やサークルの皆さんも頑張ってます！最近の幼稚園での活動の様子をお知らせします。



音楽サークル始動！

ベルマークサークル

くるみの木

絵本修理サークル

フェスティバルありがとうございました！

雨の中行われたフェスティバル、今年もたくさんの楽しい交流ができたのではないのでしょうか。私たち職員も保護者の皆さんや卒園生、教会の皆さんや地域の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごせたことに感謝しています。バザー委員会さんと手作りサークルさんは、併せて50,000円の売り上げがあり、子ども達の環境整備に使わせていただくことになりました。フェスティバルに出店して下さった皆さんからは、売り上げの1割以上ということで38,930円の寄付を頂きました。このうち30,000円を園の環境整備に、8,930円を2学期の献金に足して災害に苦しむ人々のために使わせていただけたらと考えています。皆さん、本当にありがとうございました。